

豊田市美術館：高橋節郎記念館

漆芸家の高橋節郎（1914-2007 年）の作品を紹介する高橋節郎記念館は、豊田市美術館の本館と彫刻テラスを挟んで向かい合っている。本館や童子苑の茶室と同様に、谷口吉生（1937 年生まれ）が設計した建物である。常設展示されている作品のほとんどは、1984 年に豊田市で個展を開催した後、高橋氏自身が市に寄贈したもの。

高橋氏は、黒漆を使った革新的な作品で知られている。黒漆は、伝統的に美術や装飾芸術の分野で、木製品の仕上げや、時には絵の具としても使われてきた。しかし、高橋の作品の多くは、黒漆を塗った上に文様を彫り、その溝にさらに漆を塗り、その上に金箔や粉末の金を埋めている。高橋は、こうした伝統工芸の技術を用いて、現代的な芸術作品を制作した。その作品は、古代の洞窟画や土偶にヒントを得て、真っ黒な背景に幽玄な模様や形が描かれている。

高橋氏の作品の多くは、伝統的な屏風やカンヴァスに描かれているが、漆でコーティングされた木製の彫刻、水墨画、楽器や花瓶などの日用品に装飾を施した作品も制作している。ギャラリー内は暗くて静かな空間になっており、金色の模様が際立っている。また、庭に面したラウンジがあり、ワークショップが開催できるスペースもある。